

CASBEE 京都-新築

標準システム 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|------------------------|--------|------------|
| 建物名称 | 京都大学国際科学イノベーション | 階数 | 地上5F地下1F |
| 建設地 | 京都府京都市 | 構造 | SRC造 |
| 用途地域 | 第1種中高層住居地域 | 平均居住人員 | 270人 |
| 気候区分 | 地域区分Ⅳ | 年間使用時間 | 3,000時間/年 |
| 建物用途 | 学校 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2015年3月 0.0 | 評価の実施日 | 2014年1月15日 |
| 敷地面積 | 162,270 m ² | 作成者 | 藤山下設計関西支社 |
| 建築面積 | 2,360 m ² | 確認日 | 2014年1月30日 |
| 延床面積 | 11,112 m ² | 確認者 | 藤山下設計関西支社 |



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2.4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.6**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|---|---|
| 総合 道路境界から離れた位置に計画することにより、近隣住民に配慮した計画とした。北側を共用部のメインファサードとし、安定した採光を得るとともに、西棟と東棟の間にキャンパスストリートを通す計画とし、開放性ある施設計画とした。 | | その他 アメリカのグリーンビルディングの格付けシステムである「LEED NC 認証」のシルバー以上を獲得する予定。 |
| Q1 室内環境 ・居室について、建築基準法および建築物環境衛生法による基準の1.2倍以上の換気量を確保。 | Q2 サービス性能 ・耐久性の高い配管材を採用。 ・電気・ガス併用し熱源分散を図ると共に、個別分散型の空調方式を採用し、災害時の被害減少に配慮。 ・節水器具および雨水利用により、水の利用量削減に | Q3 室外環境 (敷地内) 屋上の目隠しルーバーを勾配屋根にし、景観条例に配慮した。隣地境界から離れた位置に計画することにより、近隣住民に配慮した計画とする。 |
| LR1 エネルギー 屋上に太陽光パネルを設置。 | LR2 資源・マテリアル 地域産木材、再生骨材を利用。 | LR3 敷地外環境 敷地外に日影や照明による光害を出さない配置計画とする。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■Locoの算定条件等については、「Loco算定条件シート」を参照されたい